透析の足はさまざまな足病変を引き起こす。徹底した予防なくしては崩れた構造物は急速に変形や胼胝、鶏眼、靴ずれなどをきっかけに足が潰瘍、壊疽となる。足は身体の構造物の基礎であることから、わずかでも切断・欠損するとそれがさらに次の潰瘍・壊疽の再発を引き起こす。

小職は足潰瘍・壊疽の治療を２５年に亘り米国足病医学をベースに教育・普及に努めて現在も 11 病院で実際に糖尿病や透析患者の足病変治療の外来に参加し、それら病院の医師・看護師・理学療法士などと連携しつつ足救済の一翼を担っている。

足潰瘍の除圧には、①治療中（悪化阻止、治癒に向けた除圧、創部離開阻止）　②潰瘍再発予防の除圧　③虚血趾の悪化阻止と痛みの除圧　④足トラブルを予防するための除圧がある。本日はその活動の実際を実技実演も交えて講義する。

医師、各医療職が学ぼうとしてなかなか学べないのが「除圧手技」であり、除圧はコンセプトにしたがって行うが、実際に目の当たりにしないと伝わるものではない。小職のこの技術と足病医学の知見をできるだけ医療現場に伝える責務を強く感じている。多くの方に、様々な除圧手技、そのコンセプト、必要材料、などを学んで下肢救済に活かしていただければ幸いです。